

宮城県東松島市放課後児童クラブ 震災からの復旧・復興

高橋義則

宮城県東松島市 保健福祉部子育て支援課

本市は宮城県東部に位置し、仙台市から北東に三〇キロメートルのところにあり、全国にその名をばせている『ブルーインパルス』が所属する航空自衛隊松島基地が所在しています。市の面積は東西・南北とも約一〇キロメートルで二一〇平方キロメートルあり、東北のなかでも比較的气候が温暖で、降雪量は少なく住みやすい街です。震災時までは、四万三〇〇〇人の人口を有しておりました。

震災時の児童クラブは、市内に一〇か所の小学校のうち、九学区において主に地区センターなどを利用して実施しており、総児童数は二一六人、指導員は三〇人体制で運営していました。

東日本大震災により、市全体の三六パーセントが津波による被害を受け、一二〇〇人あまりの尊い命が犠牲になりました。沿岸部にあった児童クラブのうち、四クラブは津波によって全壊や半壊

の被害を受け、現在は別の施設で運営しています。まことに残念なことに、五人の児童と指導員一人が犠牲になり、心から冥福をお祈りするばかりです。

震災から二週間経過した頃から、児童クラブの再開について保護者の方々より問いあわせをいただくようになりました。当時、ライフラインも復旧途中で、施設として利用していた地区センターなどは市民の避難所となっていたため使用できず、各小学校の空き教室や教室の一部を提供していただき、四月二二日の小学校始業式の日からようやく再開することができました。その後もたびたび起こる余震に不安な日々をおくりましたが、唯一、実施場所が学校内であることは安心できる要因でした。施設整備や保育用品の提供など、国内外から心あたたまる支援を頂戴し、心のケアなどについてもまもなお継続して支援をいただいている

ことに感謝の気持ちでいっぱいです。

震災から約半年が過ぎた頃、各小学校の近隣に、仮設の児童クラブ専用施設の寄贈を受け、環境が整いはじめました。同じ頃、市では津波に対する避難マップの作成に取り組みはじめており、児童クラブでもこれまであった指導員マニュアルを、震災を経験した指導員の意見を反映させながら各種災害時に対応する防災マニュアルに新たにつくりかえ、指導員と保護者の方々にお知らせしました。

各種団体や支援者からは、指導員への防災に関する多くの研修機会をいただき、子どもが安全に暮らせる場所としての環境整備と、指導員の意識の高揚につながっているところです。これらをふまえて、施設内の備品の転倒防止の措置や毎月定期的に防災訓練を行い、災害時の避難経路の確認や行動についての確認も行っていきます。

また、地元の大学の心理学を専門とする教授に各児童クラブを訪問していただき、震災後の行動や発達に支援が必要な子どもへの関わりについて定期的にアドバイスを受けているほか、地元高校生による防災教育ボランティア事業も実施しています。甚大な被害を被った地域として、大震災の教訓をもとにして、今後も継続して安全対策に取り組んでいくことが必要不可欠と感じています。

今年度から施行された「子ども・子育て支援新制度」に関して本市では、とくに支援の単位に対応する施設整備が急務の課題です。国は、学校の空き教室等の活用に関する指針を示していますが、震災を経験した本市においては、なにより保護者が安心して子どもを預けられる場所の確保として、学校敷地内が最適と考えており、今後、関係部署との協議・連携が急務と痛感しているのは私だけでは

ないと考えます。いざれにしても、新制度施行や女性の社会進出の推進、充実した子育て支援のため、児童クラブの需要はいっそう増すものと考えられ、子どもたちのための安全な場所の確保は市の責務です。一方、子育て支援を推進するうえで、児童クラブを利用していない子どもたちの放課後の居場所の確保も必要不可欠であり、今後も子ども全体の健全育成に取り組む必要があると感じています。

* * *

子どもたちは、いつも笑顔にあふれています。震災の前も後もそれを支えてくれたのは、指導員の子どもたちに対する愛情そのものだと思います。あわせて、国内外から寄せられた支援に対して、一日も早く復興した姿をお示しするつもりが、皆様への恩返しになると確信し、邁進してまいります。ご支援、またごごめがありがとうございます。